

CEST Business Speaking 評価基準

CEFR	発音と流暢さ	表現方法（文法・語彙）	論理展開
C1	発音は明瞭であり、強弱、リズム、イントネーションや音の繋がりにより文の意味がうまく伝達されている。概ね難なく流れるような発話ができるており、言いよどみや間は原則として自然な範囲に収まっている。	広範囲の語彙（例：イディオムやコロケーションを使用しようとする試み）を含む複雑な文や洗練された構文をよく使いこなすことができている。語彙や文法のミスはあったとしてあまり目立たない範囲に収まっている。	メッセージを裏付ける論理はわかりやすく、話の展開は一貫している。
B2	発音は概ね明瞭だが、時として第一言語の影響が見られる。強弱、リズム、イントネーションや音の繋がりにより文の意味が十分伝達されている。言葉を探して言いよどむ様子が見られる場合がある。	十分な範囲の文法と語彙が認められる。語彙や文法のミスは存在するが、原則として意味の伝達を阻害しない範囲に収まっている。	メッセージを裏付ける論理は理解可能だが、聞き手の努力を必要とする場合がある。話の繋がりは概ね明らかである。
B1	発音は概ね理解可能だが、第一言語の影響により聞き手の努力を要する場合がある。強弱、リズム、イントネーションや音の繋がりをうまく使えない場合がある。発話の流れにはムラがあり、出だしでのつまずきや、言い直し、繰り返し、不自然な間が見られる。	使われている文法と語彙が限定的である。単純な文の発話は正確だが、より複雑な文の発話には誤りが見られ、意味の伝達を阻害する場合がある。	話に繋がりが認められる場合もあるが、概ね繋がりがないように見受けられる。
A2	一語ずつ、或いはフレーズずつの発音は理解可能な場合もあるが、第一言語の影響により理解が困難な場合もある。強弱、リズム、イントネーションや音の繋がりをうまく使えていない。発話は短く、言いよどみや間が多く見られる。	使われている文法と語彙は不十分である。正確な発話（単語や短いフレーズなど）が見られることがあるが、文法や語彙の誤りにより意味の伝達が限定的になってしまう。	回答の長さが不十分であるため評価不能。
A1	一語ずつの発音は理解可能な場合もあるが、第一言語の影響により聞き手の多大な努力を要する場合がある。強弱、リズム、イントネーションや音の繋がりを使って意味を伝達しようという試みは殆ど認められない。発話は単語やフレーズ単位に限られており、言いよどみや間が多くすぎるせいで話の流れを追うことが困難である。	使われている文法と語彙が非常に限定的である。正確な発話（事前に覚えたフレーズなど）が見られることがあるが、誤りが多く意味の伝達が阻害されている。	回答の長さが不十分であるため評価不能。